



田んぼコード

生きもの元気米2年目の平成27年より、田んぼにそれぞれコードをつけています。コードは米袋についている認証マーク内の真ん中に記載しています。(一部の袋では認証マークの外についている場合もあります。)26年は各農家さん田んぼ一枚ずつでしたが、27年には1つの農家さんが2枚の田んぼで生きもの元気米を栽培するケースもあったため、よりわかりやすくするためにコードをつけました。

文字列左のアルファベットと数字が田んぼコードです。真ん中の数字は年産です。画像は2015(平成27)年産ということで「15」です。右側の3ケタの数字は田んぼごとに、001から一袋ごとに数字が割りふられています。

食べる人は「どこの田んぼで誰が作ったお米」かがわかり、農家さんは「これは自分が作ったお米」とはっきり言い切ることができる、生きもの元気米のしゅみを明確にするものです。

生きもの元気米認証マーク



田んぼごとに生きものの記録を積み重ねます

生きもの元気米では、栽培期間中に田んぼごとに生きもの調査を行い、その結果をホームページ等で公開しています。生きもの元気米を続けている田んぼでは、毎年、生きものの記録が積み重ねられ、地域の生きものの様子が記録されます。農作業を頑張る農家さん、生きもの元気米を食べて応援して下さる方、みなさまの取組の成果として、生きものが増えていく様子をお伝えできるよう、調査を続けていきます。

今年の田んぼはどんなふうになったかな?と楽しみにしていただけることを目指して、これからも頑張ります。



生きもの元気米・五つの特徴

- 特徴1. 畦で除草剤を使わずに栽培する。
- 特徴2. ネオニコチノイド系農薬等殺虫剤の空中散布をしない。
- 特徴3. 栽培期間中に田んぼの生きもの調査をする。
- 特徴4. 生きもの調査の結果は田んぼごとに公開する。
- 特徴5. お米は田んぼ一枚ごとに管理する。



生きもの
元気米



shop

NPO法人河北潟湖沼研究所 平成28年3月発行

〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9 TEL 076-288-5803 / FAX 076-255-6941

E-Mail kome@kahokugata.sakura.ne.jp

生きもの元気米 <http://kahokugata.sakura.ne.jp/ikimonogenkimai/index.html>

ネットショップ <http://kahokugata.cart.fc2.com/>

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストの助成を受けて制作しました。

生きもの元気米2015

作る人、食べる人、田んぼの生きもの、みんな元気に

生きもの元気米通信特別号

生きもの元気米 田んぼの面積

平成26年
10,834m²



平成27年
19,344m²

約2倍になりました!

田んぼの数

平成26年
4枚



平成27年
7枚

参加農家数

平成26年
4軒



平成27年
6軒



平成26年春に、生きもの元気米の活動を本格的に始めてから約2年が経過しました。河北潟湖沼研究所と河北潟地域の農家さんたちが協働するこの活動は、たくさんの皆様からの応援で続けてきています。生きもの元気米田んぼの面積は、平成26年には10,834m²でしたが、平成27年には19,344m²と約2倍になりました。27年春に早期予約を実施しましたが、そこで「生きもの元気米を食べるよ」と意思表示をしてくださった方がたくさんいたことで、積極的に農家さんに参加を呼びかけることができ、ここまで田んぼを増やすことができました。その27年産もおかげさまで完売し、28年産の早期予約を開始する予定です。また皆様のご協力・応援をお願いいたします。

二年目をむかえた生きもの元気米のある田んぼは、それ以前と比べてずいぶん様子が変わりました。田んぼの中の生きもの、畦の植物ともに一目でわかるほど種類が増えました。「ネオニコチノイド系農薬等の殺虫剤の空中散布をしない」「畦で除草剤を使用しない」という約束を守ってお米を栽培していただけていますが、今のところ斑点米が増えたり、収量が大幅に減ったりすることは起きていません。生きもの調査で田んぼの状態をよく見ながら、薬はできるだけ使わない、という田んぼが増えれば、地域の生物多様性保全に大きな役割を果たします。農家さん、食べる人、皆様の協力ですすめられる「生きもの元気米」これからも応援をどうぞよろしくお願いいたします。

平成27年の生きものの元気米 田んぼの様子



農家さんが生きものの元気米の栽培方法を選ぶ、食べる人が生きものの元気米を選ぶ、みんなの選択のおかげで田んぼのようすがかわります。

田んぼ:WSa63 綿村 裕さん

生きものの元気米2年目、田んぼの中では一年目には見られなかった水草のシャジクモ類が見られるようになりました。「日本一長いミミズ」ハッタミミズは以前からいましたが、確認できた糞塊の数からみて、2年目はかなり数が増えたようです。畦にはコケオトギリやイボクサなど、いろいろな植物が見られるようになりました。



田んぼ:OSa159 農事組合法人One

生きものの元気米2年目、周りの田んぼが中干している夏も水が豊かに張られていて、水草のイチョウウキゴケやシャジクモ類が見られます。畦を歩くとトノサマガエルやニホンアマガエルが跳ね、大きなクサガメもいました。他の田んぼとくらべ土がとろとろしています。生きものたちにとって、とてもすみやすい田んぼのようです。



田んぼ:OSa7475 農事組合法人One

春にはトウネンの群れが羽を休めエサをついばんでいました。同じくOneさんが作っている田んぼOSa159同様、夏場も水が豊かに張られています。こちらの田んぼはカエルもたくさんいますが、イトトンボもとてもたくさんいました。水生動物も色々いるのか、田んぼを訪れるとほぼ毎回、サギやシギ等の鳥の姿が見られました。



田んぼ:YFu49 吉本 豊さん

生きものの元気米2年目、畦を歩くと、ほかと比べてイナゴがたくさん見られます。隣を土水路が流れていて、春先はコチドリやコチドリがひびきます。田んぼのところに、スズメノテッポウやチョウジタデが生え、畦ではスカシタゴボウやトキワハゼ、スベリヒユなどが目立ちます。いろんな生きものがバランスよくいる田んぼです。



田んぼ:NHa89 中村 明さん

生きものの元気米2年目、イボクサ、トウバナ、シロネ、カタバミ、トキワハゼ、スズメノテッポウ、セリなど他と比べて畦の植物の種類がとても多く、またクモの種類もとても多いことも特徴です。5-6月にはニホンアマガエルのオタマジャクシも数多く、もともと農薬をあまり使わないようにしていたためか、生きものがとても多く見られます。



田んぼ:YSa62 安田明正さん

生きものの元気米で唯一「ゆめみづほ」という石川県独自の品種のお米を栽培していたこの田んぼ、春にはくちばしの長い鳥「チュウシャクシギ」が飛来していました。畦は適度に草刈りされていて、タカサブロウやコケオトギリなどいろいろな植物が見られました。稲刈りの時にはトノサマガエルが顔を出してきました。



田んぼ:IKo140 楽園果実石橋農園 石橋英朗さん

河北潟干拓地にある石橋農園、田んぼの東隣は野菜や桃が無農薬で栽培されています。畑との境界にある竹柵ではスズメが繁殖し、近くでケリも繁殖していて、鳥の鳴き声でとてもにぎやかです。田んぼの中にはトノサマガエルやカマキリが出てきて、畦にはタカサブロウやアゼナ、ソコクサ、ボントクタデなどの植物が見られます。



田んぼの元気を見守って みんなが元気になるように

「もし、私の身体が田んぼだったら・・・」というタイトルの右の絵は、平成27年12月に東京・ビッグサイトで行われたエコプロダクツ2015で展示したものです。

薬に頼るからだ(田んぼ)と、本来もつ免疫力を発揮できるからだ(田んぼ)のどちらがよいでしょうか？

生きものの元気米は、生きものの調査で田んぼの状態を見守ります。田んぼにはいろいろな働きをする生きものが数多くいます。生きものの元気米における生きものの調査は、田んぼの定期健診です。生きものを通して田んぼの様子を知ること、必要のない薬を使わないようにします。

薬は必要最小限、生きものはたくさん、そして安心して食べられるおいしいお米ができる、これが生きものの元気米です。

